次

3

2

第四章

製錬工場の歴史……

第三章

明治末期までの別子銅山

第二章

別子銅山の発見…

第一章

別子山村のはじまり

第一編

別子山村と別子銅山

読まれる人のために

編さん主筆

合

田

正 良 別子山村長

近

藤

道

発刊のことば

別

子

Ш

村

史

3

幕末までの吹所(製錬所)

高橋熔鉱炉…………

 \equiv 六 五 五

八

五.

 \equiv

立川製錬所……

空	別子銅山本山坑略図と銅山開発と地元の対応		
六			
六	另子錚Ц開発史	第十章	
3		Ţ Ē	
五. 3	大正末期のストライキ	4	
EL.	明治末期の暴動	3	
Ħ.	慶応の騒乱	2	
五.	天明の暴動	1	
Ħ.	- 別子争議と対策	第九章	
Ħ,	大水害·······	2	
五.	大火災	. 1	
五.	- 災害の状況	第八章	
五	用水路	2	
25		1	
PSI	- 燃料の集積と用水の確保	第七章	
pu	第三通洞排水路(八番坑道準位)	5	
			134
pc	小足谷疏水道と小足谷沈澱池(寛政坑・四番坑道準位)	4	
PC	安政元年(一八五四年)大地震	3	
24	文政の大湧水	2	
PE	寛永間符(二番坑道準位)	1	
29	- 坑内の排水処理	第六章	
22	大正五年(一九一六年)以降の状況	6	
=	明治十四年(一八八一年)—明治四十四年(一九一一年)—大正五年(一九一六年)	5	
=	明治十四年 (一八八一年)—明治二十七年 (一八九四年)	4	
=	寬延二年(一七四九年)—明治十四年(一八八一年)	3	
=	元禄十五年 (一七〇二年)—寬延二年 (一七四九年)	2	
=	元禄四年(一六九一年)—元禄十四年(一七〇二年)	1	
=	輸送路の変遷	第五章	
=	四阪島製錬所	8	
=	山根湿式製錬所	7	
\equiv	角石原製錬所	6	
=	弟地沈澱銅工場	5	
=	新居浜(惣開洋式製錬所)	4	

第一章 第十二章 第十一章 第十三章 五. 第二編 昭和四十七年二月二十九日―昭和四十七年六月までに新聞紙上に報道された別子閉山に 別子銅山閉山発表以後の新居浜市・別子山村の動向…… 閉山に対する合意……… 従業員(組合)の立場からの閉山………… 位 面 境 別子山村の生きる道… 別子銅山閉山……… 別子銅(鉱)山歴代主管者名簿 積 界 置: 自然 環境 土 奈 九一 七九 六 七七 七五 出 た() 公

0	四 別子銅山の銅鉱床そのほかの地下資源	шт
一 〇 四	三 五良津角閃岩体	
0::	二 東赤石山かんらん岩体	
00	一 地質の概要	
100	第六章 別子山村の地下資源	第一
九八	一地 層	
九八	第二節 地質の各帯	第
九七	二 別子鉱床その他	
九六	一 三波川帯の変成岩類	
夬	第一節 地質の概要	第
九六	第五章 地質及び土壌	第一
九五	二 傾斜区分別面積	
九五	一 標高別面積	
九 五	第二節 地形の分類	第
九三	第一節 地形の概要	第

第七章	未開発地下資源
第一節	かんらん岩の一般的性質10%
第二節	別子山保土野谷のかんらん岩
第三節	角閃岩の分布と岩石種
第四節	骨材としての角閃岩の性質
第五節	装飾建材としての角閃岩
第六節	かんらん岩、角閃岩の需要とその開発の基本的課題
第七節	かんらん岩採掘計画
第八節	角閃岩の採掘計画
第八章	別子山村要図 ····································
第九章	気候
第一節	気象の特色
. 一	気 温
第十章	生物
第一節	動 物
一陸	陸生動物
第二節	植物
第三節	赤石山高山植物一覧
第四節	別子の植物の特色
第五節	赤石山系の自然保護地域について
一赤	赤石山系自然環境保全地域指定案区域図
二	赤石山系登山 □ Ⅰ ス図 ··································
	第三編 別子山村の過疎地域振興計画
一第一節	<u> 革</u>
二自然	自然的·歷史的条件
三社会	· 経済的条件
四過	過疎の実態

次

9 目

五五五五

次

第五節	第四節	Ξ	=	_	第三節	九	八	七	六	五.	四	三	=		第二節
節 結 語	節 昭和五十五年度広域市町村圏市町村負担金	宇摩地区広域市町村圏組合消防署嶺南分遣所開設	宇摩地区広域市町村圏組合規約の一部を改正する規約	承認を求める議案書	節 宇摩地区広域市町村圏組合規約についてーニーニーニーニーニーニーニーニーニーニーニーニーニーニーニーニ	集落の整備	農林水産業とその他産業の振興	生活環境施設等厚生施設の整備と医療の確保	教育文化施設の整備	交通通信体系の整備	土地利用	産業の振興	生活環境施設の整備	振興の基本方針	節 別子山村の振興策

第四編 別子山村有林経営計画 (至昭和六十年三月三十一日)

12

第二章

銅山の近代化と交通路の役割

四六八

方 法	
第一節 山林の種類、名称	
現在の農業	
え正、昭和戦前期の農業	
明治時代の農業	
第一節 瀋政時代の農業	
地形区分と土地利用状況	
抽 抽 氛	
第一節 地理的、地学的環境	
第二章 自然環境と産業	
第一章 産業概観	
第七編 産 業	
五 通信の現況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
四 別子郵便の消長	
三 郵便局長	
一 郵 便	
一通信	
第四章 通 信	
第三章 銅山閉山後の交通路(交通の現況) 『マート	
四 第三通洞の時代	
三 第一通洞の時代	
一 銅山峰越えの時代	
一 小箱峠越えの時代	

第七章

古文書、記録による昔の産業状況 ……

..... 五三

三十四	三十三	三十二	三十	三十	二十九	二十八	二十七	二十六	二十五	二十四	二十三	二 十 二	= +	<u>=</u>	十九	十八	十七
別子銅山鉱夫扶助規則	別子銅山鉱夫雇傭及労役規則	旅人宿	別子銅山鉱夫の種類と各就業時間	別子事業所における物品販売	醬油原料産地購入数量価格	別子銅山酒造沿革····································	焼酎醸造営業鑑札免許願····································	醬油醸造御鑑札譲渡願	清酒醸造御鑑札譲渡願	等級本番賃金表	鉱業所を新居浜に製錬所を四阪島に移転の件	鉱山拝借金抵当物之儀ニ付御願	私雇入之者海外行に付御届	海外行御印章御下渡引請御願	海外行御印章御下渡願	鉱山稼ニ付拝借金延納願	雇入外国人之儀ニ付御届

第八編 教 育

帝一章	昔の教育概況(古文書等による。)
第一節	村の教育
第二節	別子山村足谷学校費用課賦方法御伺 ····································
第三節	村立小学校沿革
第四節	私立別子尋常高等小学校沿革
第五節	学校の創立
第六節	別子鉱業所別子講習所
第七節	私立住友別子尋常高等小学校足谷分教場廃止
第八節	寄附願
第九節	私立住友別子小学校役職員
第十節	私立住友別子尋常高等小学校卒業生名
第十一節	別子山村の学校に就ての見込書
第十二節	書籍及び標本目録

第十三節		別子山村学齢児童数部落別
第十四節		教育費の寄附を請う件
第十五節		社会教育
	青年団体	四体
_	別子山	別子山村青年会規約
Ξ	女子青	女子青年団の組織
完一章		近年の教育
◎現在	の学	◎現在の学校教育
第一節		別子山村立別子小中学校沿革概要
第二節		学校沿革史(学校、校長、児童数、生徒数)
1	学校	学校・校長・児童数・生徒数
2	校	歌
3	別子	別子小学校平面図
4	別子	別子中学校平面図
5	最近	最近の教育推移
第三節		昭和五十五年度教育計画

_ _	小中学校教育目標・構造図
<u>-</u>	村の課題と本校の特質
三	学校経営の概況
現在	◎現在の社会教育 キ0キ
那 節	社会教育の概要と基本方針 +0+
1	概 要
2	基本方針
晃 二節	地域の課題
弗三節	重点目標と努力点 七10
界四節	施策と学習内容七三
 五節	教育方法及び教材 七三
界六節	別子保育園の状況
現 七 節	社会教育関係団体
 八節	社会教育関係団体の動向
	別子婦人会
二別	別子山村青年団

4

信仰集団…

------- 八二七

目

											笛					
八	七	六	五	四	Ξ		-		=	-	第九節	六	五.	四	\equiv	
南光院快盛法印追善の餞	仏 閣	円通寺と南光院	氏神費寄附及びその他寄附に関する件 宍宍	大山積神社経営に関すること	小足谷目出度町に鎮座していた大山積神社のこと 宍川	村社祠掌歎願之事	神社と祭り	第九編 社 寺	任命制の教育委員会	公選制の教育委員会	教育委員会	各種表彰受賞	別子山村公民館	別子山村老人クラブ	別子保存会	

3 祈願・参拝・巡礼	第四章 信 仰	第三章 社会生活	二 住	第二章 衣、食、住	第十編 民 俗	
## 4 ## 4 ## 4 ## 4 ## 4 ## 4 ## 4 ## 4	<u></u>	八二三	七九七七九七	七九五	七八七	

第五章	民俗知識
1	しつけ
2	医療・衛生・保健
3	ト占・まじない
第六章	民俗芸能
第七章	人の一生(通過儀礼)
1	生児儀礼
2	育 児
3	成年式
4	婚 礼
5	死 喪
6	葬送り
第八章	年中行事
1	一 月
2	一 月
3	三 月

2	1	第十章	2	1	伝	第九章	10	11	10	0	0	_			
					説	早	12		10	9	8	7	6	5	4
祝い歌	動	民	歴史:	5 然		口	二	_	+	九	八	七	六	Ħ.	四
《座敷歌》	労働歌	部 ····································	歷史的伝説	自然伝説	説	口頭伝承	十二月	十一月	月	月	月	月	月	月	月

一 瓜生野の窓

プ里・見ころにしている。このグ俊	ナ	
して子・馬こうばン・デぎょうのスペー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	L	
-八 竹ケ市の隠居地と空さこ・地獄谷	十八	
-七 ナル・紅茅・大木谷の山の神···································	十七	
- 六 小美野・焼尾・土地荒れその他	十六	
- 五 肉渕・長門山・田之久保宿跡	十五.	
-四 芋野と小字・猪の谷・善地・赤坂	一四四	
- 三 見残し・竹首	十三	
-一 切場長兵衛	十二	
- 一 字草原(クシャバラ)と天皇・竹首・文の鳥・見残し・鰯荒れ	+	
- 字谷と此谷の川の説	十字	
7. 上谷の木地屋床	九上	
(横道山の千坊とギッチョウ	八楼	
瓜生野山のコビアナと母うつぶきとらが水	七m	
、大湯の尻高	六十	
	五.	
1 瓜生野の柴折と大石休場	四	
一 瓜生野山の本陣の久保と大瀧権現および弓置き	三	
一 瓜生野「ホキ」		

+	係土町とセ ^ タイの洋・壓ケ関・負切谷及ひ血あい場
<u>+</u>	保土野に過ぎたる観音さん
<u>-</u> +	保土野の観音堂と円通寺跡と学校新築
二十三	床鍋と付近の小字名および法皇権現
二十四	瀬場・豊後と付近の小字名・東赤石山
二十五	中野の谷・葬々谷及び砥石谷
二十六	葛篭尾と開拓地
二十七	筏津・弟地とその付近·······
二十八	弟地と付近の小字名
二十九	除(白尾)南光院・大野谷・日浦谷・穴ケ渕・天狗岳・入らず山
三十四	別子銅山と中七番
三十一	字山方(本シキ)・まえ山
三十二	字木方・目出度町・永久橋
三十三	字寛政谷・東延南口
三十四	字高橋・溶鉱炉
三十五	字小足谷•小足谷向え
三十六	小足谷醸造所
三十七	小足谷接待館と職員住宅その他

九八七六五 四 \equiv 三十八 源兵衛坑… 第十二編 近藤嘉平太…… 南光院快盛法印…… 近藤九郎右工門盛俊………… 近藤氏系図及び家紋・旗紋・ 近藤盛次……… 近藤半之亟藤原季清… 和田義邑……… 人 物 九六0 --- 九六四 --- 九五三 --- 九六二 -- 九五五 :: 九五七 北四六 九五

第十三編 御用廻章写控帳

妻鳥良諦師………

藤田米次郎-------

::. 九六五

: 九六六

火難御届…… 各種の覚え及び触書……… ・・九九一 ... 九六九

第十四編 別子山村役場と住友鉱山会社との往復古文書

五	住友の銅山経営に対する幕府の援助	[IBO]
十六	屠牛場開設するに当って	10四四
十七	拝借金古証書御下渡願	10四州
十八	外国人免状解約後所置振り取調猶予之願	10四八
十九	別子銅山へ曽て仏国人雇入候儀に付左に奉申上候	10四八
+	私雇入之者海外行に付御届	10四九
<u>+</u>	海外行御印章御下渡願	10年三
十二	山林並銅山鉱山需用の地所拝借之儀に付願	0五五
十三	屠牛営業免許鑑札願	10宝九
十四四	伝染病予防	10六三
十五	墓地払下について	10公四
十六	西南戦役と火薬売買	10六七
一十七	点灯の願	10六九
十八	博物館献品之儀に付願	1040
十九九	明治二十四年度	1401
干	村税徴収の件	10中四
干	家屋貸与の件	10中国
	以東斤밐又与多云〇十	FILL O

二六	6 瓜生野	
九五五	大野の景勝	
九四四	小多里発電戸	
九二	東 宮・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
11九0	成 部落	
九0	3.	
	第十五編 別子山村及び旧別子案内	
一会	一 試掘延期に関する件	
三	筏津坑と別子山村の関係	
三	第四章 村と別子銅山事業所との関係	第
一四九	二 村費・造林費など寄付に関する件	
一四七	隔離病舎建築の件	
一四七	第三章 昭和年代の部	第
四四	八 住友合資会社継承事業経営に関する件	
	寄附金・借家に関する件	
二元	六 村役場建築費見積内訳及駐在所の件その他	
三	五 村役場及分教場移転、借家に関する件	
11110	四 別子山村役場移転改築の件	
二六	三 退職一時賜金之儀に付説明	
一〇九九	一 寄付金に関する件	
10九六	一 建物交換並に副築費の件	
10九六	第二章 大正年代の部	第
10九二	四十三 暴動報告書	
0九	四十二 県村税通引の件	
10九0	四十一 河川引用事業一部変更の件許可	
10八九	四十 県村税賦課方法改正の件	
10公	三十九 寄附願の件	
10八七	三十八 記念品付与の件	
1000		
10公宝	三十六 郵便局経費補助の件	
l 옷 1	三十五 明治三十九年度別子山村歳入出追予算総計表	
100	三十四 橋梁御架設之儀に付歎願	
10公六	三十三 寄附及補助金の件	

9 8 7

11101 11101

一九九九

	©
21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4	3 2 1 H 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10
小足谷接待館跡 小足谷接待館跡 小足谷接待館跡 小足谷 大和間符 小足谷 東京	3 1 1 10 天皇橋

23 22

25 24

第三通洞(八番坑道準位)

千人塚…………… 第一通洞北口…… 角石原停車場跡…

編纂を終って

別子山村々史編纂を終って

田 正 良

> <u>-</u> 三二 듯

田 善 孝

尾 合

第一編 別子山村と別子銅山